

第3回アメリカ研修報告（4日目）

富山中部高等学校

7月6日（水）、研修4日目は朝から晴天。滞在している寮に空調はもちろんありませんが、本日の気温は35度近くまで上がり、風もないため、室内にいても汗ばむほどのです。生徒は8時50分の集合時間に遅れることなく集まり、それぞれのクラスへ出発していきました。



カフェテリア
で他国留学生
と交流



English class

あるクラスがロビーで授業を始め、小グループに分かれてポスター作成をしていました。コミュニケーションしながら内容を詰めていく過程では他国からの留学生主導の場面が多く見られ、中部生はどちらかと言うと聞き役に回ってしまっている様子です。知識があるが故に失敗することを気にしてしまい、言葉になるまでに時間がかかっているように見受けられました。まずはとにかく声を発することで話す意志があることを示し、食欲に授業に参加して欲しいと思います。

午後は Dana-Farber cancer institute を訪問しました。Davis から Dana-Farber の最寄り駅 Longwood までは乗り換え含めて 40 分程です。Longwood は医療・研究機関が集まっている地区であり、Harvard Medical をはじめ世界最先端の医療が集まる街といえます。Dana-Farber 研究者である北嶋先生にお越し頂き、ご自身のバックグラウンド、現在行っている研究までのお話を頂きました。開始直後は様子を伺っていた生徒たちも終盤にはたくさんの質問が出て、医療分野に興味がある生徒からは専門的な質問をぶつけ北嶋先生に「難しい質問だな」と言わせる場面もありました。「研究者として日本とアメリカの違いは？」「アメリカ生活に必要なものは？」という質問には「アメリカには潤沢な資金がある。つまり失敗が許容される、10 回中 1 回成功すれば大成功となる。アメリカ生活に必要なものは英語。必要であるものを避けると必ず行き止まりがくる。」という言葉頂きました。北嶋先生からの言葉を自分の状況にあてはめて、英語への壁を超えるべく失敗を恐れずに 1 歩踏み出せることを願います。



北嶋さん、野口さんを囲んで



松河原さんからのレクチャー



Dana-Farber 研究員の北嶋さん

夕食後は学校とスカイプでつながり、タイトなスケジュール、他国生との英語力の差、様々な葛藤を生徒1人ひとりが抱える中、束の間日本にいる先生方や友人とリラックスした時間を過ごせているようでした。

研修も中間地点を終えようとしている中、自分たちの今までの行動を振り返ってこれからの研修に繋げるため、希望者を募りミーティングの時間を持ちました。個人個人に目を向ければよく行動し頑張っているアメリカ研修3期生ですが、果たして40人1人ひとりがチームの一員として、そしてリーダーとして果たすべき「責任」を全うしているのかどうか、ある程度出来ていることに満足してしまうことで、自分の限界値がとても低いところになってしまっている可能性も感じます。

頑張っているものの、ダイニングでの交流も出来る出来ないをやる前に判断してしまっていることがあるのではないか、アクティビティの時、日本人で固まっている時間が長くあるのではないのか。遅刻に対する意識、防犯の意識、MITやその他の場所でいらして頂いたゲストの方とどんな時間を過ごすのかなど、もう一歩踏み込んで挑戦して欲しい思いがあります。

今できることのさらにもっと上を目指していくハードな研修のはずです。富山中部高校のアメリカ研修10日間のうちに、これでいいと満足する瞬間が果たして必要なのかどうか、ぜひ全員で忌憚なく意見を交わして欲しいところでした。

ミーティング自体は、今このチームが抱えている問題について主に議論が進みました。やはりお互い「我、関せず」な部分が多く、チームとしてバラバラであること、まだまだ意識の差も大きい、とにかくやれる人間がどんどん行動で示し、研修を盛り上げていこうということで締め括りました。



Harvard Medical の前にて